



病院案内



独立行政法人 国立病院機構
東京病院

National Hospital Organization
Tokyo National Hospital



ごあいさつ



当院は前身の国立療養所東京病院から、平成16年4月に国立病院機構東京病院として発足しました。敷地内には緑が多く、武蔵野らしい、くぬぎ、けやき、どちのき、やまぼうしなどの大木が生えています。つつじやアメリカハナミズキ、えごのき、ざざんかなどの植栽が、季節になると華やかさを加えます。秋には、落葉樹が色づき、季節の移り変わりを教えてくれます。一方で、平成16年3月に完成した7階建ての病棟は、広い廊下にゆったりとした配置の病室が並び、大部屋のベッドもスペースをあけてカーテンで仕切られているため、入院中は落ち着いた雰囲気の中で、過ごしていただけます。外来は、はいってすぐに2階まで吹き抜けのホールがあり、また緑の多い中庭など、圧迫感の少ないような工夫がされています。

医療面での当院の最大の特徴は、医師数、患者数ともに日本有数の呼吸器センターです。呼吸器疾患は、がん、感染症、間質性肺炎をはじめ多岐にわたりますが、それぞれの分野で呼吸器専門医に指導できるレベルの医師を有しています。それに加えて、地域医療に貢献するべく、内科系、外科系などの診療科も充実しています。また、リハビリテーションの歴史も古く、呼吸リハビリとともに、脳卒中中心の回復期リハビリテーション病棟も地域の患者さんを支えています。国立病院機構ということで、セーフティーネット系の診療科をもち、他病院の補完をしています。詳しくは「診療部門」をご覧ください。

当院は、教育、研修にも力を入れています。新人看護師の教育を始め、様々なレベルでの高度な看護師教育も行っています。医師に関しても、呼吸器内科、リハビリテーション科を中心に、後期研修の研修希望者も多く、呼吸器研修では1対1での指導やレクチャーなども行っています。院外に開かれた形の研修も、病理細胞診、リハビリテーション、呼吸ケア、呼吸器看護などのテーマで数多く行っています。また、多職種チームも数多く機能していて、医師、看護師、コメディカル、事務がお互いの知識や専門性を生かしながら、協力して患者さん中心の医療を行っています。

そのうえで、現状に満足することなく、医療の質や安全性の向上に病院をあげて取り組み続けるとともに、患者さんにとって満足度が向上するようにたゆまぬ努力を継続してまいります。

国立病院機構東京病院院长 松井 弘穎

理念

**医療を受ける人の立場に立って人権を尊重し、
安全で質の高い医療を提供します。**

基本
方針

医療の安全管理に万全を期し、患者さん本位の医療を提供します。
地域医療機関との連携を図り、地域に信頼される医療を提供します。
医療従事者の教育・研修に努め、医療に関する情報を提供します。
健全で安定的な病院運営に努めます。

沿革

当院は、昭和初期から結核療養の聖地と位置づけられた清瀬病院・東京療養所の時代から、我が国における結核治療・医学研究の中心的な役割を担ってきております。現在は、結核症、慢性肝疾患、神経難病などのsafety net専門医療施設として重要な役割を果たしているだけでなく、社会のニーズに合わせて呼吸器、喘息・アレルギー・リウマチ、消化器、肺循環・喀血、総合診療、放射線診療、腫瘍、臨床検査の8センターを設置し、各診療科の枠を超えた有機的な診療、地域の中枢機関病院としての医療を行っております。今後も、国立病院機構に属する病院としてふさわしい高度・専門性を持った医療および臨床研究、教育研修の実施のために、更なる病院の充実強化に向け積極的に取り組んでまいります。

東京療養所

昭和 14年 11月 傷病軍人東京療養所として開設
昭和 20年 12月 厚生省に移管、国立東京療養所と改称

清瀬病院

昭和 6年 10月 東京府立清瀬病院として開設
昭和 22年 4月 厚生省に移管、国立療養所清瀬病院と改称

統合

国立療養所東京病院

昭和 37年 1月 国立東京療養所と国立療養所清瀬病院を統合し、
国立療養所東京病院として発足
昭和 62年 10月 臨床研究部を設置
平成 16年 3月 病院建て替え工事を完了

独立行政法人国立病院機構東京病院

平成 16年 4月 独立行政法人国立病院機構東京病院として発足
平成 22年 8月 救急告示病院として承認
平成 22年 10月 呼吸器センター設置
平成 23年 3月 地域災害拠点病院として指定
平成 24年 7月 喘息・アレルギーセンター
消化器センター
総合診療センター設置
平成 24年 10月 二次救急開始
平成 26年 4月 放射線診療センター設置
平成 26年 11月 人間ドック開始
平成 28年 2月 地域医療支援病院として承認
平成 28年 4月 腫瘍センター
臨床検査センター設置
平成 29年 4月 東京都がん診療連携協力病院(肺がん)として指定
平成 30年 4月 肺循環・喀血センター設置
東京都難病医療協力病院として指定
平成 31年 4月 東京都アレルギー疾患医療専門病院として指定

病院概要

名 称／独立行政法人国立病院機構 東京病院
院 長／松井 弘穎
所 在 地／〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3丁目1番1号
電話 (042) 491-2111
FAX (042) 494-2168
所管保健所／多摩小平保健所
病 床 数／医療法許可病床数 522床（結核病床数 100床）
診 療 科／内科 外科 呼吸器内科 呼吸器外科 消化器内科
消化器外科 リハビリテーション科 脳神経内科
循環器内科 耳鼻咽喉科 アレルギー科 整形外科
眼科 泌尿器科 放射線科 緩和ケア内科 感染症内科
歯科 麻酔科 病理診断科 リウマチ科
指 定 医 療／保険医療機関
労災保険指定病院
生活保護指定病院
身体障害者福祉法指定医
更正医療指定病院
結核予防法指定病院
原子爆弾被爆者医療指定病院



広い敷地と四季折々に表情を変える緑あふれる環境
人にやさしいバリアフリーデザイン
安らぎと快適な空間があなたをお迎えします。

●病院全体のご案内



外来・ロビー

●各階のご案内

7階	7 東病棟 結核	7 西病棟 結核	
6階	6 東病棟 呼吸器内科	6 西病棟 呼吸器内科	
5階	5 東病棟 呼吸器内科 循環器内科	5 西病棟 呼吸器内科	
4階	4 東病棟 呼吸器外科・泌尿器科 消化器外科・整形外科	4 西病棟 消化器内科 眼科	
3階	3 東病棟 休棟中	3 西病棟 リハビリテーション科 脳神経内科・整形外科	
2階	各科外来 臨床検査科 治験管理室	HCU・手術室・売店	
1階	地域医療連携室 各科外来・薬剤部 臨床検査科	食堂・薬剤部 栄養管理室・治験事務室	2病棟 脳神経内科 1病棟 緩和ケア

— 外来棟 — || 病棟 —



臨床検査科



薬剤部



食堂



売店

診療部門：センター

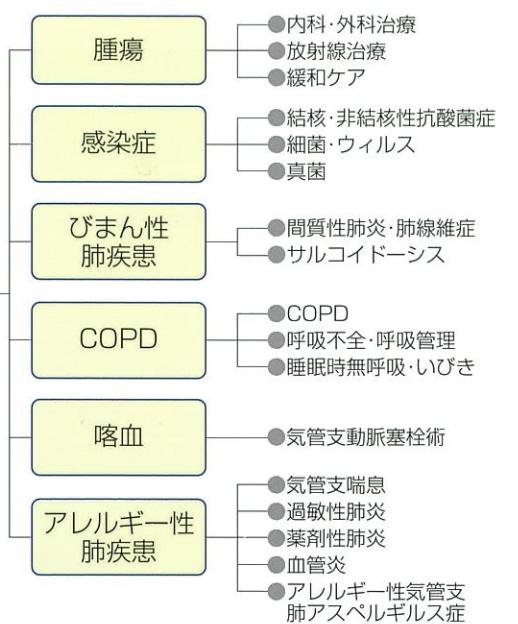
medical centers

呼吸器センター

当センターは疾患別に、結核・非結核性抗酸菌症・アスペルギルス症等の感染症、肺癌、COPD、びまん性肺疾患、喀血、アレルギー性肺疾患の6部門に大きく分けられ、様々な呼吸器の病気に対応できます。呼吸器内科を中心とする呼吸器外科・アレルギー科・放射線科・リハビリ科とも協力して、それぞれの診断・治療を迅速・適切に行ってています。



呼吸器
センター



喘息・アレルギー・リウマチセンター

気管支喘息や咳喘息の患者さん、咳が長引く患者さんを対象として、気道過敏性検査、気道可逆性検査、アレルゲン皮膚テスト、モストグラフなどの検査を行い、アレルギー専門医が診療を行っています。気管支鏡を用いた気管支サーモプラスティ(BT)は、重症喘息の治療として新しく認可された治療法ですが、当センターではいち早く導入し実績を積み上げています。また、エピペンによるアナフィラキシーの治療や舌下免疫療法によるスギ花粉症の治療も行っています。

消化器センター

食道、胃、腸、肝臓、胆道、脾臓など、消化器の様々な病気に対する迅速で総合的な専門診療を、地域の皆様にご提供できるよう、消化器専門医師(内科系、外科系)を中心に、放射線科医師、リハビリテーション科医師、緩和ケア内科医師、地域医療連携医師、消化器専門看護師、臨床検査技師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、ケースワーカーらが連携してチーム医療にあたっています。

腫瘍センター

当院では様々ながんに対して各診療科による専門的ながん診療が行われていますが、その診療を横断的に支援、統括するため、新たに腫瘍センターが創設されました。腫瘍センターには外来化学療法室、分子標的薬・免疫治療支援チーム、緩和ケアチームが置かれ、抗がん剤レジメン管理部会やキャンサーサポートの運営、がん登録の管理も行っています。また緩和ケア病棟や在宅緩和医との連携、がん講演会の開催にも積極的に取り組んでいます。

臨床検査センター

当センターは、患者さんから採取した血液や尿を分析・解析する生化学・免疫学・血液学検査部門のほか、心電図や超音波検査、呼吸機能検査で体や臓器の機能を測る生理学部門、肺炎や肝炎などの感染症の原因となる細菌やウィルスを検出する微生物検査部門、内視鏡検査や手術で取られた臓器を顕微鏡で検査する病理部門などから成っています。これらの検査データは病気の診断や治療方針決定、経過観察時などに役立っています。どの部署も、精度の高い検査結果を迅速に提供することに努めており、外部機関が主催する精度管理調査にも積極的に参加しています。必要であれば院外の施設・研究所に相談(コンサルト)もしています。



手術室



内視鏡検査

肺循環・喀血センター

患者さんのニーズに益々お応えできるように肺循環分野まで診療を拡大し、2018年4月から私たちは肺循環・喀血センターを開設しました。2010年に開設した喀血治療部門では、カテーテル治療の進歩とともに当院における大喀血で急変される患者さんが激減していきました。また当院の気管支動脈塞栓術の実績は全国でも有数です。気管支動脈塞栓術後も患者さんが落ち着かれるまで、当院でしっかりと支持診療を致します。肺高血圧症は、1990年代の新規治療薬の開発に伴い内科治療が著しく発展しましたが、依然として難病と考えられ、早期診断と治療が求められています。私たちは肺高血圧症治療をしっかり行えるシステムづくりとして、循環器科医師と共に検査と診療体制を構築しスムーズな診療を心がけております。肺循環・喀血センターとして、医療提供の向上につながるよう患者さんとともに肺高血圧症と喀血治療に努め、その一方で、地域の先生方と連携しながら、この分野の診療においても、頼りにされる病院を目指しています。

総合診療センター

総合診療センターには総合内科、脳神経内科、循環器内科、整形外科、放射線科、リハビリテーション科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、歯科、臨床検査科を含んでいます。

患者さんのニーズに応えるため、各診療科の特徴を生かしながら診療の質の向上を図っています。

●循環器内科

胸痛・動悸・高血圧・心雜音・むくみなどの症状をお持ちの虚血性心疾患、心不全、不整脈、心臓弁膜症などの循環器疾患に対する診察を行っています。必要により心エコー、心筋血流シンチ、心臓カテーテル検査などを行い、薬物治療、経皮的冠動脈形成術、ペースメーカーなどの治療を行います。

●整形外科

脊椎疾患、四肢関節疾患の診察と、各疾患の保存的治療から、手術まで幅広く行っています。

●臨床検査科

患者さんから採取した血液や尿、喀痰などの検体を分析装置や顕微鏡を用いて検査しています。また心電図や超音波検査、呼吸機能検査などで身体の状態を検査しています。これらの検査データは、病気の診断や治療、経過観察などに役立っています。

●リハビリテーション科(リハ)

「回復期リハ病棟」で脳血管障害を中心に365日リハを展開すると共に、院内の呼吸器疾患、神經難病、骨関節疾患、周術期のリハにも力をいれています。

●緩和ケア内科

進行したがんやエイズによる、色々な形の苦痛に対して、入院による緩和治療を行っています。

放射線診療センター

画像診断部門と治療部門に分かれていますが、専門医と診療放射線技師・専任看護師が、全科にまたがる横断的な診療にあたっています。診断部門では診断専門医がCT・MRIやアイソトープによる画像検査のレポートを作成し、報告を行なっています。治療部門では治療専門医が高エネルギー放射線治療装置で種々のがんに対する治療を行なっています。

●歯科

外来・入院患者さん対象に一般歯科治療を行います。

他科と連携し口腔ケア、手術前後や化学療法中の口腔管理、睡眠時無呼吸症候群の口腔内装置作成なども行っています。

●泌尿器科

排尿障害および尿路性器癌(腎癌、膀胱癌、前立腺癌)の診断、治療、手術を泌尿器科指導医2名で積極的に行っています。

尿路性器癌に関しては手術療法、放射線療法、抗がん剤治療、分子標的薬による集学的療法が可能です。

●眼科

眼科疾患全般にわたり対応しています。

●耳鼻咽喉科

主に耳・鼻・のどの病気の診療を行います。病院にある全科の視野を背景に診療できることが特徴です。



●脳神経内科

パーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症などの神經難病や認知症などの診療を行っています。

●麻酔科

手術で必要な全身麻酔や硬膜外麻酔、脊髄も膜下麻酔などの伝達麻酔を担当します。3名の常勤医で高度な技術と安心を提供しています。

看護部の理念

思いやりのある、あたたかい看護を行います。

看護部の方針

1. 看護の役割と責務を自覚し、患者さんの個別性と安全を大切にした看護を実践します。
2. 専門職業人としての知識・技術の向上を図ります。
3. 研究的視点で臨床看護の質の向上を図ります。
4. 患者さんの生活の質改善に向けて、地域医療・保健機関との連携を図ります。
5. 患者さんと一緒に考え、看護を実践します。



HCU



ナースステーション



カンファレンス



病棟の廊下



特別室(2人室)



特別室(個室)



4人室



病棟食堂



談話室

安心できる入院生活に向けて

入院中の生活については、病棟で主治医、看護師から説明があります。詳細は『入院のご案内』をご覧下さい。
わからないことがございましたら、お尋ね下さい。
特別室は個室と2人室とがあり、シャワー室を併設した部屋もご用意しております。
特別室以外のお部屋は、4人室を採用し、入院患者さん1人あたりの専有面積を広くしております。
また、各部屋専用のトイレを備え、療養環境の向上に配慮しております。
患者さん、ご家族に安心して病院を利用していただくため、1階7番窓口に患者相談窓口を設置しております。

お食事について

入院中のお食事については医師の指示により症状、年齢などを考慮してご用意致します。
一般食(常食、むさしの食、貧血食)の患者さんを対象に特別メニューを実施しております。
食中毒防止のため、食品の持ち込みは控えて下さい。
管理栄養士による栄養指導を行っております。
詳しくは担当医、看護師にお尋ね下さい。

ICT (Infection Control Team:感染制御チーム)

病院内で感染症が生じていないか情報共有をするとともに流行拡大を防ぐための早期介入を行っています。また、根拠に基づく感染対策について検討し、現場への提案・実践の確認・評価を行い、院内感染の発生を未然に防げるよう努めています。

メンバー 感染制御医師、感染管理認定看護師、看護師、薬剤師、細菌検査技師、診療放射線技師、医療安全係長、リハビリスタッフ、事務

AST (Antimicrobial Stewardship Team:抗菌薬適正使用支援チーム)

耐性菌抑制を目的に、特定抗菌薬使用例と血液培養陽性例の情報を基に、週1回抗菌薬の選択・投与量に関してカンファレンスを行い、必要時、ASTから直接主治医に変更案を提示しています。

メンバー 感染制御医師、感染管理認定看護師、薬剤師、細菌検査技師

RST (Respiratory Support Team:呼吸サポートチーム)

人工呼吸器離脱や挿管チューブの抜管にむけた最適な治療の道筋を助言し、サポートとともに、人工呼吸器の安全管理、治療効果の向上、合併症の減少をめざしたチーム活動を行っています。現在、人工呼吸器を装着されている患者さんに対して、医師とコメディカルが患者さんの回復を促進するための介入を検討しています。

メンバー 医師、歯科医師、慢性呼吸器疾患看護認定看護師、看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、臨床工学技士

NST (Nutrition Support Team:栄養サポートチーム)

体力を消耗させる病気や重症の病気では栄養状態が低下しますが、栄養状態が低下すると病気はさらに治りにくくなり進行します。この悪循環を栄養面から改善して病気回復をめざします。週1回、栄養改善が望まれる患者さんについて討議を重ね、総合的な改善策を検討しています。

メンバー 医師、歯科医師、管理栄養士、皮膚・排泄ケア認定看護師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士

褥瘡対策チーム

褥瘡(床ずれ)回診を行い、洗浄方法や除圧方法、褥瘡局所の評価方法等の支援を行っています。栄養サポートが必要な患者さんに対しては、褥瘡対策部会の管理栄養士がコーディネーターとなり、NSTと連携を図りチーム医療を展開しています。

メンバー リハビリ科医長(褥瘡対策委員長)、皮膚・排泄ケア認定看護師、看護師、薬剤師、管理栄養士

緩和ケアチーム

緩和ケアはがんの終末期だけのものではなくがん治療と平行して行われることが重要です。緩和ケアチームは、がん治療のために入院中の患者さんを対象に、主治医と連携してがん患者さんの痛みをやわらげ、生活の質が向上することをめざして活動しています。

メンバー 医師、緩和ケア認定看護師、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、事務

DCT (認知症ケアチーム)

多職種と連携して認知機能の低下がある患者さんが安心して療養できる環境作りや、患者さんの生活背景を踏まえながら、患者さんのもつ力を活かしたケアの実践を目指して活動しています。

メンバー 医師、認知症看護認定看護師、医療ソーシャルワーカー



ICTカンファレンス



NSTカンファレンス

当院では初めての方も含め、診療予約ができます。

また、予約の変更もできますので、お気軽にご連絡ください。

患者さん

他院からの紹介状

あり

なし

地域医療連携室

地域医療連携室
電話番号
TEL. 042-491-2934 (直通)
(受付時間 平日の8:30~17:15まで)

● 地域医療連携室の目的

地域医療連携室は、地域の医師会や医療機関と連携し地域医療ネットワークを整備し、できるだけ当院とかかりつけ医療機関との業務分担を行い、地域の患者さんが安心して継続的医療を受けられるようサービスの向上を図ることを目的としています。

ご利用時間について

月曜日～金曜日（平日） 8時30分～17時15分まで

(※翌診療日予約分は15時30分までとなります。)

(※CT・MRI・栄養指導は15時30分までとなります。)

休日及び時間外については、当直医が対応いたしますので東京病院（代表電話）へおかけ下さい。

● 外来の診療予約をされる場合

患者さんの診療予約のご依頼をされる場合は、地域医療連携室へご連絡ください。

なお、患者さんご自身でも外来予約をお取りになることも可能です。

● 転院(入院)のご依頼をされる場合

患者さんの転院（入院）のご依頼をされる場合は、地域医療連携室へご連絡ください。

併せて、「患者様連絡票」をFAX願います。

※連携医の皆様へ

患者さんをご紹介いただく場合は、地域医療連携室までご連絡下さい。



予約センター（正面入口のすぐ近くにございます）

入院サポートセンター

入院サポートセンターでは、予約入院となる患者さんの入院支援や入院申込手続き等を行っています。特に手術や検査のため入院される患者さんには、入院後、安心して入院生活が送れるよう看護師、薬剤師、管理栄養士等の他職種による治療や検査説明、入院に関する指導等支援を行っています。



入院サポートセンター



電車各線からのアクセス

西武池袋線

清瀬駅南口よりタクシー 5 分。

清瀬駅南口バス 2 番乗り場より

久米川駅行・所沢駅東口行は「東京病院北」下車。

下里団地行・滝山営業所行・花小金井駅行は

「東京病院玄関前」下車。

(早朝夜間など「東京病院玄関前」を経由しない場合がありますので車内アナウンスに御注意下さい。)

※清瀬駅へは、

- ・池袋から西武線快速・準急で 22 分。

- ・新宿から池袋経由で 36 分。

- ・都営大江戸線練馬経由で 40 分。

- ・渋谷から副都心線直通で 39 分。

JR 武蔵野線

新秋津駅前からの無料シャトルバス 15 分。

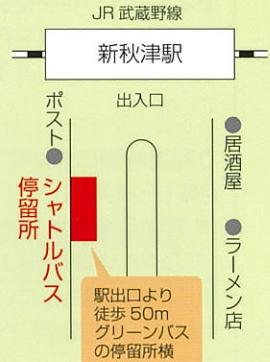
新秋津駅よりタクシー 10 分、

または西武池袋線秋津駅に乗り換えて清瀬駅まで。

●無料シャトルバス時刻表 (平日のみ運行)

往復 各 12 便運行

時刻	新秋津駅発 (東京病院行き)	東京病院発 (新秋津駅行き)
8時	05 40	25
9時	15	00 45
10時	00 35	20 50
11時	05 40	25
12時		55
13時	10 50	35
14時	30	15 55
15時	10 45	30
16時		05



お車でお越しの方へ

駐車場 : 265 台収容可能

西武新宿線

久米川駅の北口バス 1 番乗り場より清瀬駅南口行で「東京病院北」下車。

花小金井駅北口より清瀬駅南口行きのバスで「東京病院玄関前」下車。

(早朝夜間など「東京病院玄関前」を経由しない場合があります。)



独立行政法人 国立病院機構

東京病院

National Hospital Organization Tokyo National Hospital

<https://tokyo-hp.hosp.go.jp/>

東京病院

検索

外来診療予約センター

ご意見、ご質問は

042-491-2181

✉ 217-admin-9@mail.hosp.go.jp